

## 「宮盛農園研修修了生の交流会」を開催

【平成 29 年9月7日掲載】

広島県果樹農業振興対策センター宮盛農園では、これまでに6名の研修修了生が就農し、かんきつ経営を開始していますが、研修修了生から、「研修修了後、研修生同志の繋がりが薄くなっているのので、久々に会って話しがしたい。」「幼木の栽培管理はある程度分かるが、成木の栽培管理に関しても勉強したい。」などの意見が出ていました。

そこで、宮盛農園と協議し、8月3日に研修修了生等を対象にした現地実習と交流会を開催したところ、12名の参加がありました。（研修修了生4名、現役研修生3名、蒲刈町の担い手1名、関係者4名）

午前中は、宮盛地区の研修修了生の圃場で温州みかんやはるみ、ポンカン等の摘果を実習し、次いで宮盛農園でいしじ主幹形の生育状況を確認し、栽培技術の検討を行いました。午後は、恵みの丘で、宮盛農園の田中農園長が摘果の考え方や具体的な方法について、指導所が土壌水分と果実肥大、品質との関係、タイベックマルチの効果などについて講義を行いました。また、労力の確保や各自の働き方、収穫物の有利な販売方法などについて、活発な意見交換を行いました。

交流会終了後、「若い担い手同志で交流の時間を持てて良かった。」「実習をしたことで、摘果の目安が分かった。」などの声がありました。今後も研修修了生や宮盛農園と協議し、現地実習や交流会を実施していく予定です。



【はるみの摘果の目安を確認】



【意見交換の様子】